

1-5-2 棲霞山 歎喜寺略史

歎喜寺は明暦 2 年（1656）の草創で、開基治部郷明了師は照蓮寺（高山別院）第 13 世宣明師の第 2 男である。

照蓮寺開基嘉念坊善俊上人は、人皇第 82 代後鳥羽上皇の第 12 皇子で、建保 2 年（1214）に御誕生あらせられた。然し時の鎌倉幕府の執権北條義時は、承久の乱により、後鳥羽上皇を隠岐に、土御門上皇を土佐に、順徳上皇を佐渡に移し、その他の皇子等も悉く離散され、仏門に入って難を逃れられた。

第 12 皇子も承久 3 年御年 8 歳で園城寺に逃れ、僧となり道伊と名乗られた。その後、伊豆の三島に住居されていたが、寛喜 3 年（1231）8 月箱根で宗祖親鸞聖人に遇われてその弟子となり、名も嘉念坊善俊と改められた。嘉禎年中、聖人の御寿像、真筆名号を供奉して諸国僻境の巡化に出られ、美濃路より郡上白鳥に入られ暫らくここに住居された。宝治年中、飛騨国白川郷鳩谷村に移られ、念仏の教を説かれていたが、法縁熟して多くの念仏行者が集り、その懇望によって 1 宇を建立された。これが照蓮寺（高山別院）の濫觴である。

その後、子孫相續して法燈を伝え、第 10 世明心師の時、莊川村中野（御母衣ダムに水没）に移り、第 13 世宣明師の時、金森長近公の飛騨入国となり、その要請で天正 16 年（1588）高山に移転された。現在の高山別院である。

明了師は元和 5 年（1619）宣明師の第 2 男として生まれ、幼名を小輔、または治部郷ともいう。寛永 11 年東本願寺宣如上人の得度を受け、明了と改名された。父宣明師の幼名である。

それより先寛永 9 年、父宣明師は寺務を長子宣了師（照蓮寺第 14 世）に譲り、明了師を伴い門西に隠居された。寛永 18 年 9 月 10 日遷化、年 77 歳。

異母兄弟ではある兄宣了師と明了師との仲はあまりよくはなかったようであるが、殊に宣了の嗣宣心（宣了には男子がなく、1 人娘の「おなけ」に娶すため金森重頼公の第 3 男、式部郷従純をもらいうけていたが、「おなけ」は寛永 8 年早逝したので、東本願寺宣如上人に懇請して、その第 3 女佐奈姫をもらいうけて内室とし第 15 世を継ぐ。この時照蓮寺の血脈絶える）とは心が合わず、その圧迫に耐えかねて、姉の婚家、越中八尾の聞名寺に逃れ、その後、諸国行脚に出られていたが、国守金森頼直公のはからいで、大八賀郷三福寺村字井ノ上（現在地）に

- 一、境内地
- 一、持仏堂
- 一、米 6 石 但毎年
- 一、薪 3 間 同

の寄進を受け、父宣明師より譲られた嘉念坊伝来の法宝物を供奉して、明暦 2 年（1656）3 月にこの地に移られた。これが歎喜寺の開基である。然し宣心師の迫害は益々激しく、頼直公よりの寄進の扶持米薪は断たれ、その日その日の生活にも事欠く有様となり、遂に止むなく、姉のもと聞名寺を頼り、延宝 2 年（1674）西本願寺に転派した。

明了師の一生は誠に不遇であった。妻には寛文 6 年に、母にはその翌年に死別し、4 人

の子女を抱えて世情にすがっての生活も、西派に転じたことによる宣心の怒りをかい、宣心は國中門徒の末々まで酷しく明了師への一宿一飯の布施も禁止してしまった。然しやがてこの不遇の一生も終わり、元禄 8 年 (1695) 12 月 12 日遷化された。年 77 歳であった。

明了師の長男教心は書をよくし、早くから照蓮寺に入って寺務に専念して第 16 世琢晴を援けた。本山より興隆寺の寺号を下附されている。

次男善明が第 2 世を継ぐ。元禄 14 年 9 月 20 日寂如上人より木仏、寺号を免許される (願主明了死後 6 年)。享保 12 年 (1727) 本堂を造営する。棟梁は松田太右エ門以治である (現在のもの)。同年 9 月 9 日入仏法要を執行された。享保 19 年親鸞聖人真影下附される。元文 3 年 12 月 5 日遷化、年 78 歳。

善明の長男浄明は古川正覚寺 (現円光寺) に入り寺務を継ぐ。多くの著述があり中でも岷江記は祖父明了、父善明の口述をもとに照蓮寺の詳細な寺史で著名である。

次男善了が第 3 世を継ぐ。寛保元年 (1741) 4 月庫裏を造営する (現在のもの)。宝暦 8 年 (1758) 宗祖親鸞聖人 500 回忌法要厳修する。明和 4 年 4 月 2 日遷化。

第 4 世善貞は善了の長男である。明和 7 年 3 月 9 日親鸞聖人絵伝免許される。寛政 12 年 11 月 16 日遷化、68 歳。

第 5 世は善貞長男善暁が継ぐ。親鸞聖人 550 回忌法要を準備中、文化 8 年 10 月 8 日遷化される。年 44 歳。善暁には兄弟が多く弟善応 (後善貞と改名) は円徳寺に、次弟了厳は母の実家の還来寺に、次の弟は宝円寺にそれぞれ入寺している。

第 6 世善隆は善暁の長男である。父夭逝のため、わずか 12 歳で継職する。父の死の翌年文化 9 年 (1812) 10 月親鸞聖人 550 回忌法要を厳修する。この時 13 歳の善隆を中心に門信徒、総力を挙げて事に当たり、現存する宮殿、須弥壇、厨子等本堂の荘厳はこの時に造営され、作者は京都福美屋である。また文政 2 年 (1819) 10 月梵鐘を鑄造された。明治 6 年 3 月 3 日遷化される。年 74 歳。

弟善調は高山に居住し、その長男治平は三島豆の創始者である。

第 7 世善栄は明治 4 年 2 月宗祖聖人 600 回忌を、明治 15 年 4 月嘉念坊上人 600 回忌法要を厳修する。この期に本堂を修復し、高棟にし、また土蔵を新築される。明治 39 年 4 月 3 日遷化。年 82 歳。

第 8 世恵信は清見村夏厩蓮徳寺より入寺、庫裏、土蔵の大修理をなし、大正 13 年 5 月宗祖聖人 650 回忌、昭和 8 年 5 月嘉念坊上人 650 回忌法要を執行し、同年 12 月 19 日遷化される。年 61 歳。

第 9 世怙舟は第 8 世恵信の第 3 男である。幼少より病弱で在職わずかに 1 ヶ年にて、昭和 10 年 1 月 12 日遷化される。年 32 歳。

第 10 世晃導は第 8 世恵信 (6 男 3 女中) の第 5 男。

昭和 12 年応召従軍 2 ヶ年、昭和 24 年 5 月蓮如上人 500 回忌法要を、昭和 47 年 4 月宗祖親鸞上人並びに寺祖嘉念坊上人 700 回大遠忌法要を厳修される。また、昭和 17 年から 20 余年間、同派神通寺の法務代行を勤める一方、昭和 24 年から保護司として 30 余年間、飛騨慈光園長を 11 年余、ほか幾多の諸団体公務に従事し、44 年の長きにわたって寺門の興隆に尽力され、昭和 62 年 1 月 10 日遷化される。年 81 歳、葬儀 (門徒葬) は同年 1 月 18 日。

第 11 世亮昌 (現在) は晃導の次男。昭和 53 年 11 月継職、平成元年 8 月当山庫裏 (創

建以来 248 年経過) を新築造営、落成慶賛法要厳修。

『観喜寺略史』平成元年発行より